

ノーバディーズ・パーフェクト 平成26年度 事業評価報告

実施者： NPO法人 place of peace

後援： 静岡市

評価者： 後藤あや（福島県立医科大学）

津富宏（静岡県立大学）

報告日： 平成27年5月16日



ノーバディーズ・パーフェクト（NP）とは

- カナダ全土で行われている「親」学習プログラム
- 日本でも育児の自信がつくことが報告されている
(後藤、津富、他、カナダのNPを参考にした育児学級参加者の追跡、
保健師ジャーナル、2010; 66: 1086-1094)
- 参加者が決めたその日のテーマに沿って、悩み、迷い、気になっている事を話し合う
- NP専任のファシリテーターが、様々な手法を用いて話し合いを進行する
- 交流の中から参加者自身が学び、自分の子育てにどう生かしていくかを考えるプログラム
- 対象は未就学児の保護者
- 基本的に2時間/回を毎週1回、計6回
- 一時保育を用意



平成26年度事業評価方法

- 対象：1か所で実施したNPを評価
- 評価方法：実施前後に自記式アンケートを実施
- 評価項目：参加率、参加回数、アンケート結果
- アンケートの主な内容
 - 実施前：日常生活で困っていること、子育てで大変なこと
 - 実施後：学んだこと、変わったこと、今後に向けての意見、満足度、その他自由記載
- 分析方法
 - 量的データの集計
 - 質的データのSCATによる解析（→参考資料）



参考資料：

SCAT (Steps for Coding and Theorization)

- 小規模の質的データ（文章）の解析に適用できる。
- 文章から注目する語句を取り出し、言い換え、その背景を説明し、浮き上がるテーマを書き出す。テーマを用いて、ストーリーライン（文章のまとめ）を作成する。



<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/>



対象者の特徴

- 参加者は8人
- 事前アンケートは6人、事後アンケートは7人から回収

特徴	人数
子ども数	
1人	3人
2人	4人
一番小さい児の年齢	
0才	3人
1才	2人
2才	2人



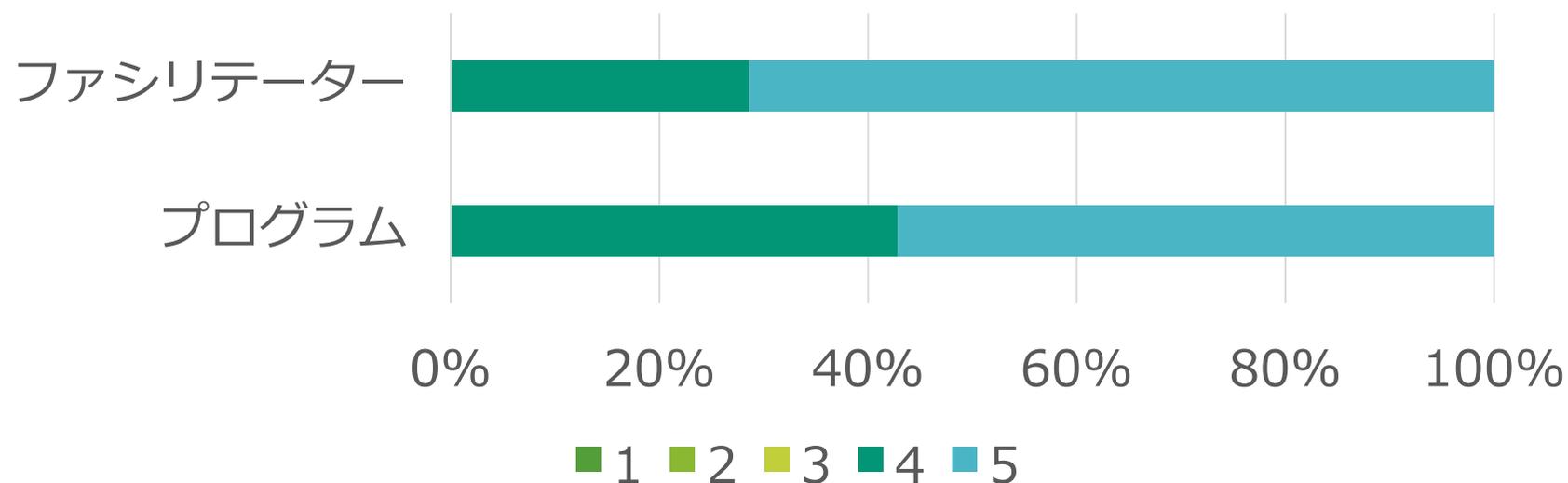
アンケート結果：量的データ

- 満足度

「このプログラムはどうでしたか？」

「ファシリテーターはどうでしたか？」

5段階スケール：1（全然よくなかった）～5（非常に良かった）

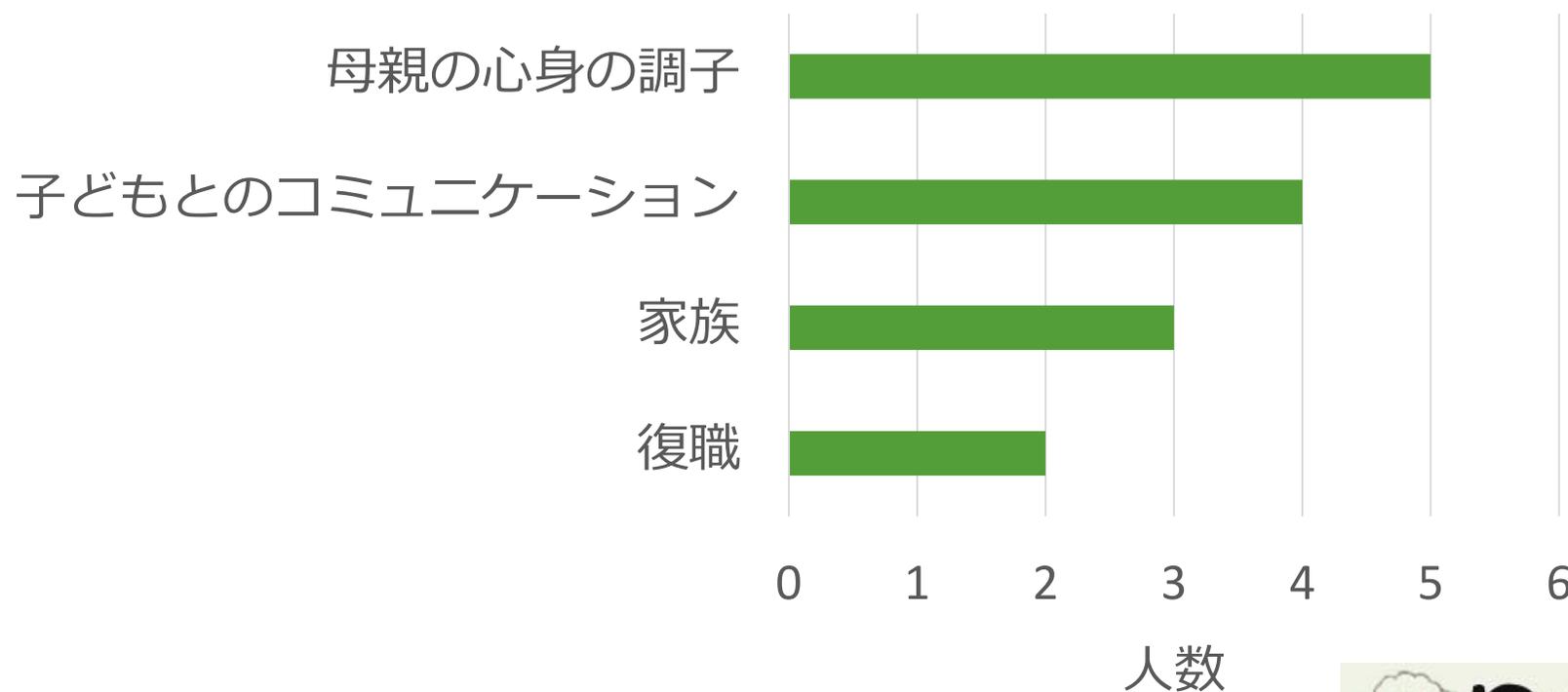


参加者の満足度は高かった。



アンケート結果：参加前の質的データ

- 日常生活で困っていること、子育てで大変なこと
 - ※平成25年度調査で作成したカテゴリーを利用して集計
 - ※2人以上が記載したカテゴリーを提示



記載例

- 母親の心身の調子、子どもとのコミュニケーション

「ぐずられたりすると、自分の予定していたことややりたいことができずにイライラしてしまい、子供がぐずるのは言えない(から)と思うと自己嫌悪になってしまう。」

- 家族、復職

「主人の帰宅が遅く、二人をみないといけないとき。仕事に復帰できるか心配になることがある。(復帰して家事育児を両立していけるか……)」

参加前は、子どもとのコミュニケーション、家族との関係、そして自分の復職について悩み、心身の不調を訴えていた。



アンケート結果：参加後の質的データ

事後アンケート7人分の記載内容をSCATで分析し、2人以上で重複した項目を以下に挙げた。

■ 運営のポイント

- 参加者と場の設定が重要。
- 話し合いの上でファシリテータの役割が重要であり、気持ちの受容、傾聴、自己開示でき主体性を尊重する場の提供が必要。
- 話し合いに加えて、地域の情報や課題解決の方法など、知識・技術を提供する要素も必要。



■ 客観的な視点の獲得

- 自分と周りを客観視でき、柔軟に対応する姿勢を身につけることができる。

記載例 「子どもの立場になって感じたり、考えたりするようになった。自分だけが子育てに悩んでいるんじゃないんだと実感でき、今回出会った方たち以外にも街で会う子連れの人たちもみんな仲間に思えてきた。」

■ 主体性の獲得

- 自己開示と気持ちの共有を通じて、自ら必要なことに気がつき、育児の主体性、自己肯定感が高まる。

記載例 「完璧な(親も)子どももないのだが、私たち流に頑張ろうと思う。」



■ 仲間づくり

- 協力者がいること、自分が協力することもできるという、人と人の協力関係に気が付く。
- 仲間づくりや家族とのコミュニケーションを促す。

記載例 「この様に話し合っ、自分の気持ちを吐き出してみると、よりわかりあえた気がしました。」

■ 精神的健康の向上

- 上記の学びから、精神的健康が向上する。
- 自分の精神的健康の向上が、他者との関係向上のきっかけとなる。

記載例 「話を聞いてもらえた事がとても大きかったです。．．．自分を大切に出来て、初めての人の優しく慣れるのだと。時に自分のための休息をとりつつ、娘と、夫と、夫の家族と向き合っていきたいと思いました。」



■ 継続支援の必要性

- 学びの実用性は高く、一時的な精神的健康の向上は見られるが、継続的かつ専門的な支援の継続が必要となるケースもある。

記載例 「うちの長男が一番すごいなとひそかに思いつつ、人一倍、私はストレス解消法を探さなければ。」(註:発達が気になるケース)

受容と傾聴を基本とする話し合いにより、育児の主体性と客観的な視点を獲得して、仲間づくりもできた。自分の精神健康度が向上することにより、他者との関係向上のきっかけとなった。ただし、継続支援を必要とするケースもある。



評価者の経過観察メモ

※評価者2人がN Pの運営経過を観察した

- 日本公衆衛生学会での平成25年度成果報告が、自治体との連携強化のきっかけとなった。
- 評価者への連絡を密に行い、平成26年度以降も事業評価を継続し、新規事業の検討も行っている。



まとめ

成果

- NP参加者の満足度は高い。
- 参加前の主な訴えであった、心身の疲れやコミュニケーションの悩みが、参加後には解決される傾向にあった。
- その機序としては、受容と傾聴を基本とする話し合いを通じて、育児の主体性と客観的な視点を獲得し、また、自分の精神健康度が向上することにより、他者との関係向上のきっかけとなることが示唆された。

課題

- 参加者数が平成25年度に比較して少なかった。
- 継続した支援が必要となるケースのフォロー。



提言

- 一定の成果を上げており、本プログラムへの、**市の継続した後援、支援**が望まれる。
- 市保健師・助産師の協力を得て、各グループ数回だけでも参加いただき、育児相談への対応や、個別相談が必要な**ハイリスクケースへの迅速な対応ができる体制**の確保が必要である。
- プログラム内での交流の場の提供は限られており、参加者の自助グループ、または上記の専門的サポートにつなげる**継続支援**が必要である。

